

現 計 画				変 更 要 素 （審議会での主な意見）	次 期 計 画 で 新 た に 追 加 す る 目 指 し て い く 姿 （ 目 標 ）
4 つの 視 点	7 つの 柱 立 て	施 策	施 策		
ひと	自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人	家庭・地域と連携し、 子どもの学びを支え育む	1 児童・生徒の心身の健全な発達の支援	① 子ども・若者の応援とまちとの一体感	① 子ども・若者を含めた区民がやりたいことを実現し、世代を超えてまちが一体となっていく。
			2 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育期までの取り組み	② 子ども、学校内の多様性	② 子ども・若者に多くの選択肢を提示できる。
			3 課題を抱える子どもの状況に応じた支援の充実	③ 孤立・孤独対策と子どもの居場所づくり	③ 子どもの居場所をつくり、子ども一人ひとりの個性を尊重し、伸ばしていく。
	自ら考え行動し、その成果を地域に活かす人	生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動 を実践できる仕組みをつくる	4 安全・快適に学べる教育施設の整備と学校運営の充実	④ コロナ禍での環境変化による不登校の増加など	④ 学力の底上げに取り組むとともに、優秀な児童・生徒をさらに伸ばしていく。
			5 子ども・若者がたくましく生き抜く力を育むための成長支援	⑤ 学力の底上げと優秀な児童・生徒をさらに伸ばす取り組み	⑤ 多様な主体が学校に関わることで、特色ある学校づくりを進める。
				⑥ 学校格差の解消	⑥ スクールハラスメントが防止され、安心して通学することができる。
ひと	自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人	妊娠から出産・子育て まで切れ目なく支える	1 妊娠、出産、子育てへの切れ目のない支援の充実	⑦ 多様な主体・地域が関わる学校づくり	⑦ 子どもだけでなく、親同士をつなぐことで悩みなどが共有できる。
			2 子育てと仕事の両立支援（待機児童対策と教育・保育の質の向上）	⑧ スクールハラスメント	⑧ 支援が必要な子どもの学びを確保する支援（特別支援学級など）
			3 虐待の防止とひとり親家庭への支援	⑨ 親同士をつなぐ支援	
	自ら考え行動し、その成果を地域に活かす人	生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動 を実践できる仕組みをつくる	1 文化・芸術活動の充実と郷土の歴史継承の支援	⑩ 支援が必要な子どもの学びを確保する支援（特別支援学級など）	
			2 生涯学習活動の充実と地域における学びの循環		
			3 生涯スポーツ活動の充実と地域還元		
ひと	自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人	多様な個性やライフスタイルを認めあう風土を醸成する	1 人権尊重意識の啓発	① 誰もが安心して産み育てられる	① 子育てをしても、自分のやりたいことにチャレンジすることができる。
			2 男女共同参画社会の推進	② 困難があったときに相談できる関係を作っていく支援	② 年齢、収入、パートナーの有無、価値観などに関わらず、安心して産み育てられるまち
			3 多文化共生社会の実現	③ 「保活」が過酷	③ 多様なニーズに対応した保育サービスなどの子育て支援の充実
	自ら考え行動し、その成果を地域に活かす人	多様な個性やライフスタイルを認めあう風土を醸成する	4 ユニバーサルデザインの推進	④ 本当に必要な人に支援が届くアウトリーチなどの視点	④ 支援が必要な人に適した支援が確実に届くため仕組みづくりやアプローチ
				⑤ 母子家庭・父子家庭の違いなど、ターゲットにあった支援	⑤ 学童保育室の待機児童対策にさらに取り組む。
				⑥ 学童保育室の待機児童問題	
ひと	自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人	多様な個性やライフスタイルを認めあう風土を醸成する	1 文化・芸術活動の充実と郷土の歴史継承の支援	① 活発な活動を支援してさらに突き出していく。	① 誰もがやりたいことに参加したり、自ら参加したい活動をつくることのできるまち
			2 生涯学習活動の充実と地域における学びの循環	② 世代などを問わず、みんながスポーツできるまち	② 年齢・障がいの有無等に関わらず、スポーツでつながることができるまち
			3 生涯スポーツ活動の充実と地域還元	③ 発表の場や施設などの不足	③ 活発な活動など、今ある地域の特性や魅力をさらに活かすことができるまちづくり
	自ら考え行動し、その成果を地域に活かす人	多様な個性やライフスタイルを認めあう風土を醸成する	1 人権尊重意識の啓発	④ イベントが単発で終わるのではなく、まちぐるみのイベントや連携する仕組みでさらに活発化していく。	④ まちぐるみのイベントなど、地域が活性化し、一体化を得られる地域づくり
			2 男女共同参画社会の推進		
			3 多文化共生社会の実現		
ひと	自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人	多様な個性やライフスタイルを認めあう風土を醸成する	4 ユニバーサルデザインの推進	① 誰もが認め合えるまち	① 誰もがお互いを認め合い、つながることで、新たな価値を生み出すことができるまち
				② ジェンダー平等社会	② 性自認など、互いの個性や特性を尊重し、受容し合えるまちづくり
				③ 家庭内男女共同参画	③ 性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）を解消し、互いを尊重し、支え合える意識づくり
	自ら考え行動し、その成果を地域に活かす人	多様な個性やライフスタイルを認めあう風土を醸成する		④ 男性ゆえの生きづらさ	④ 互いの文化や背景を理解することで、様々なルーツを持つ人々と相互理解が進むまちづくり
				⑤ 外国人との相互理解	⑤ 多様な価値観を共有し理解を促すことで、年齢やその他の個性に関わらず誰もが認め合える仕組みづくり
				⑥ 外国人の子どもだけでなく、親にも視点を当てたサポート	
ひと	自己肯定感を持ち、生き抜く力を備えた人	多様な個性やライフスタイルを認めあう風土を醸成する		⑦ 子どもへの人権教育だけでなく、大人への人権教育も必要	
				⑧ 人権に関する取組みを押し進めるための仕組み	
	自ら考え行動し、その成果を地域に活かす人	多様な個性やライフスタイルを認めあう風土を醸成する			

答 申 の 骨 子 と し て い く

現 計 画			
4つの視点	7つの柱立て	施策	施策
くらし	地域とともに築く、安全なくらし	区民の命や財産を守り、くらしの安全を確保する	1 感染症対策の充実
			2 食品等の安全確保と生活環境の維持・改善
			3 消費者被害や特殊詐欺被害を未然に防ぎ、区民の暮らしを守る
			4 ビューティフル・ウィンドウズ運動のさらなる推進
			5 反社会的団体等の排除
	環境負荷が少なくくらしを実現する		1 地球温暖化対策の推進
			2 ごみの減量・資源化の推進
	いつまでも健康で、住み続けられる安心なくらし	高齢者、障がい者などの生活のサポート体制を充実する	1 高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられる、地域包括ケアシステムなどの体制の充実
			2 障がい者などが必要なときに必要な支援を受けられる体制の充実

- | |
|---|
| 3 高齢者、障がい者のセーフティネット（虐待対応等）と権利擁護 |
| 4 くらしやしごとで困っている人が、状況に応じた保障や支援を受けられる体制の強化・充実 |
| 5 民生・児童委員などとの連携強化等を通じ、地域で支え合う体制の充実 |
- | |
|-------------------------|
| 1 住んでいると自ずと健康になれる仕組みの構築 |
| 2 地域における保健・医療体制の充実 |
| 3 持続可能な医療保険制度の運営 |

- | |
|--|
| ① 健康・病気への教育の強化 |
| ② 地域全体で防犯に取り組む。 |
| ③ 声掛けをする仕組みなど、地域で関係を作ることで、安全なまちを保てる。 |
| ④ 消費者教育は学校だけでは足りない。 |
| ⑤ 実態を隠して反社会的団体へ勧誘するケースがある。 |
| ⑥ ごみ屋敷問題など、専門家の知見を活用することで有効な手段を打つことができる。 |
| ⑦ 喫煙ルール、たばこのポイ捨てなどのマナー |
- | |
|--------------------------|
| ① 植樹など、行政と区民で協働して活動する取組み |
| ② 家庭のCO2排出量が多い |
| ③ 区民一人ひとりが環境にやさしいまち |
- | |
|--------------------------------------|
| ① 高齢者と子ども、以前からの住民と転入者などをつなげる。 |
| ② 地域で高齢者を見守っていく。 |
| ③ 孤立・孤独を抱えている人を地域グループや公的サービスに橋渡しする支援 |
| ④ 障がい者が当事者として、各分野へ関わっていく。 |
| ⑤ 障がい者とそれ以外の方が関わることで理解が深まっていく。 |
| ⑥ 困りごとが複合化しているため、重層的支援が重要となる。 |
| ⑦ 弱い絆を豊かにしていく。 |
- | |
|------------------------------------|
| ① スポーツの視点を取り入れた健康づくり |
| ② 性感染症など、今まで以上に子ども・若者への健康教育を行っていく。 |
| ③ 子どものオーバードーズが増加している。 |

- | |
|---|
| ① 区民一人ひとりが健康・病気に関する正しい知識を身に付け、まち全体で公衆衛生などに取り組む。 |
| ② 地域住民がお互いを見守ることで、地域の防犯力や反社会的団体等への対策が高まるまちづくり |
| ③ 消費生活に関する啓発を行い、自立した消費者を増やす地域・まちづくり |
| ④ 行政が専門家と連携することで、ごみ屋敷問題などの地域課題を解決していく。 |
| ⑤ マナー向上により、誰もが快適に暮らすことができるまちづくり |
| ⑥ 安心して生活できる環境を整えることで、新たなチャレンジにつながっていく。 |
- | |
|---|
| ① 行政だけでなく、区民のやりたい気持ちと協働してCO2削減などに取り組んでいく。 |
| ② 区民一人ひとりが環境に配慮し、まち全体で環境問題に取り組むまちづくり |
- | |
|---|
| ① 多様な世代、属性の住民が交流することで、新たな活力が生み出されていくまち |
| ② 高齢者などが地域とつながることで、地域グループとのつながりや、適切な支援・サービスにつながるができる仕組みづくり |
| ③ 障がい者など、すべての住民が当事者として地域と関わり、つながりを持つことができるまちづくり |
| ④ 複合化している問題に対して、重層的な支援を行うことができる体制づくり |
| ⑤ 従前からの密なつながりによる「強い絆」に加え、今求められているゆるやかなつながりである「弱い絆」も豊かにしていく。 |
- | |
|---|
| ① 健康でいることで、様々なやりたいことに取り組み、生活が豊かになっていく。 |
| ② スポーツの視点を含め、まちぐるみで良い生活習慣づくりを推し進めるまちづくり |
| ③ 子ども・若者が健康などに対する正しい知識を身に付け、自分や他人を守ることができる人に育つための仕組みづくり |

答申の骨子としていく

[illegible]

現 計 画				変 更 要 素 （審議会での主な意見）	次 期 計 画 で 新 た に 追 加 す る 目 指 し て い く 姿 （ 目 標 ）	答 申 の 骨 子 と し て い く
4 つの 視 点	7 つの 柱 立 て	施 策	施 策			
行 財 政	区民の活躍とまちの活力をささえる行財政	多様な主体による協働・協創を進める	1 協創推進体制の構築	① 行政がやり過ぎている。 ② アイデアを出し合うまちづくり ③ NPO等を行政で育てていく。 ④ 協創が生まれる場を作る。 ⑤ 新しいコミュニティの在り方 ⑥ 様々な主体の活動がうねりとなり、区の活力になる。 ⑦ 区民の動きをサポートして生み出されるものがある。 ⑧ 災害と関連付けてコミュニティを考える。	① 多様な人々がアイデアを出し合い、自ら地域の活力となっていく仕組みづくり ② 多様な主体の活動を促進し、新しいコミュニティや価値を生み出していくまちづくり ③ 多様な主体の活動を尊重し、それぞれの活動が連携し合っていく仕組みづくり ④ 災害があっても、頼れる・相談できる人が身近にいる地域づくり	⇒
			2 地域活動の活性化			
		戦略的かつ効果的な行政運営を行う	1 効果的かつ効率的な区政運営の推進	① 良い人材を揃えていく。 ② 適切な評価 ③ やりがい、働き甲斐、モチベーションを向上させる仕組み ④ 組織が縦割りになっている。 ⑤ 将来を見据えた戦略的な取組み ⑥ 人口減少を見据え拡充するだけでなく、縮小することも必要 ⑦ 無駄な施策の廃止 ⑧ 高齢者でもインターネットが当たり前の時代がくる。	① 職員が主体的に事業に関わることで、やりがいを感じていく好循環を生み出す仕組みづくり ② 適切な評価やモチベーションを向上させる取組みによって職員のエンゲージメントが向上する職場環境 ③ 将来の状況を客観的に見据え、事業の廃止も含めた戦略的な運営を行う行財政 ④ 高齢者のインターネット利用など、将来を見越したビジョンを持った体制・仕組みづくり	⇒
			2 戦略的な人事管理・組織運営の推進			
		区のイメージを高め、選ばれるまちになる	1 魅力の発掘・創出とプラスイメージへの転換	① 区の発信する言葉は難解なものが多い。 ② 目的に適したメディアを効果的に使い、アクセスしてもらうことができる情報発信 ③ 区内外のマイナスイメージを変える ④ マイナスからの脱却だけでなく、良い面のPRもしていく。 ⑤ 情報を受け取る側の反応を意識していく。	① 誰もが簡単にアクセスでき、正しい情報を理解できる情報発信 ② マイナスイメージからの脱却だけでなく、区の良い面を発信していくことで、区民が「誇り」を外へ表明でき、区外にも良い面が認知される情報発信 ③ 情報を受け取る側の反応など、様々な要素から効果的に情報発信を行っていく。	⇒
			2 効果的な情報発信と区政情報の透明化			
		次世代につなげる健全な財政運営を行う	1 将来にわたり安定した財政運営の推進	① 公共施設の複合化、再配置 ② スマートシティ ③ 学校図書館の開放など、人口減少を見据えた公共施設の転用等の活用策 ④ NPOなど、区の活動拠点としての公共施設 ⑤ ネーミングライツやクラウドファンディングなど、新たな資金調達	① 将来の人口減少、人口構造の変化による財政状況等を見据えた公共施設の複合化・転用等の検討及び適正配置の推進 ② クラウドファンディングなど、従来の方法に捉われない手法等を検討した財政運営	⇒
			2 自主財源の確保			
			3 公有財産の活用と長寿命化の促進			

現 計 画

4 つの
視 点

施 策
体 系

分 野

変 更 要 素
(審議会での主な意見)

次 期 計 画 で 新 た に 追 加 す る
目 指 し て い く 姿 (目 標)

ひと・くらし・まち・行財政

す べ て の 施 策

「やりたいことができる」
「つながる」

子ども・若者の
意見表明等

そ
の
他

- ① 足立区に「ふるさと意識」「思い出」があると定住につながる。
- ② 「やりたいことができた」から足立区に定住した。
- ③ 「やりたいことのマグマだまり」がある。やりたいことにつながれることで、足立区に住んでいることの価値を知ることができる。
- ④ 誰一人も取り残さない支援は引き続き必要だが、同時に「やりたいこと」をサポートしていく支援も重要である。
- ⑤ 「やりたい」と思ったことが応援してもらえると良い。
- ⑥ 「やりたいこと」を始めるための火種が重要なポイントとなる。
- ⑦ 人の力を借りれば活動できる人がいるので、そのような人たちを支援していく。
- ⑧ 「やりたいこと」の見える化・ネットワーク化
- ⑨ 「やりたいこと」の見える化や、「やりたいこと」の発信により、多分野で協働していく仕組みができる。
- ⑩ 職住分離の在り方が変わってきており、会社とは別に居住地でコミュニティを作ることが活力につながる。
- ⑪ 他の世代と交流しないと、自分たちの考えに偏ったコミュニティになってしまう。
- ⑫ 「あやセンターぐるぐる」のような生きた交流の場があると良い。
- ⑬ できなかったこと、気づかなかったことに徐々に気がついていき、つながっていく。
- ⑭ アナログだけでなく、デジタルでもつながりができるプラットフォーム
- ⑮ 行政だけでなく、区民と一緒にできる活動でつながっていく。
- ⑯ ウェルネスのプラットフォーム

- ① 子どもたちの考えを行政運営に反映していく仕組み
- ② 「子どもの意見を聴く」ではなく、子どもの「こうしたい」ということを行政と一緒に考えていく方向へシフトしていく。
- ③ 子どもに対して「支援する」「支えてあげる」という視点が強いが、子どもが大人と同じ目線に立って考えることができることも重要である。
- ④ 多様な人の意見や考えを区政に反映させるためには、性別の視点のほかに年齢といった視点も必要。
- ⑤ 若い人をまちに取り込んでいく。

- ① 今後、中年単身者の問題が顕在化していく。
- ② 中間所得層に届く施策が少ないと感じる。
- ③ 「足立区出身」と誇りを持って言えるまち
- ④ 区外の人の意見を聞き、強みを活かしていく。
- ⑤ 他都市とのつながりにより新しいものが生まれる。

- ① 「やりたいこと」が後押しされ、実現することで、自らの価値とともに足立区の価値を知っていく。
- ② 「やりたいこと」の実現が、「つながり」を生み、形成していく、多様な人々と関わる新たなコミュニティネットワーク
- ③ 「やりたいこと」をキーワードに、様々なチャンネルでつながることができる、自らが主役になっていくためのプラットフォーム

- ① 子ども・若者が当事者として、同じ目線で区の未来を描いていく仕組みづくり
- ② 子ども・若者を含めた多様な人々が、一緒にまちをつくっていくためのプラットフォームづくり
- ③ 子ども・若者が当事者としてまちへ関わることで生まれる、まちとの一体感やまちへの愛着・誇りの高まり

- ① 中年単身者の背中を押す、「やりたいこと」への参加・チャレンジの場
- ② 貧困であっても、そうでなくても、それぞれの選択肢を増やす行政のサポート
- ③ 一人ひとりが足立区の価値を認識し、高めあい、発信していく、まちが一体となった足立区
- ④ 区外にも認められ、つながっていく、都市としての足立区

答 申 と の 骨 子 と し て い く